問 最先端の物流拠点、水道水の確保は

答 供給体制は十分あります

水道のむだをなくし安心を

問 多古町水道経営戦略では、有※収水量が減少しているものの、1日最大給水量および1日平均水量ともに横ばいとあるが、言わんとすることは何か。

生活環境課長 人口が減少していれば水道水の使用量も減少していくのが通常ですが、使用量が減らない要因として、漏水が増加している状況が考えられます。

問 漏水事故について、件数はどのくらいか。また、修理工事にかかる予算はどのくらい見込んでいるのか。

地域の水を守るため、迅速に復旧対応

生活環境課長 年間50件程度の漏水が起きている状況です。1回の工事で30万円を超える工事になりますので、多く見積もって70件相当の約2200万円の予算を確保しています。

問 老朽化した水道管の更新も始まっているとのことですが、進捗状況は。

生活環境課長 漏水が頻発している路線について、今年度は高津原地区と十余三地区の約1600メートルの管路の布設替え工事と多古浄水場と久賀浄水場を結ぶ連絡管の工事を進めています。今後、避難所などに接続する配水管の耐震化を優先的に進めていきます。

問 鷹ノ巣地区に最先端の国際物流拠点が建設されますが、水道水の確保はどのように進めていくのか。

生活環境課長 飯笹・鷹ノ巣地区のグッドマンジャパン㈱による開発に関しては、平成5年度の住宅団地開発計画などに基づき、第1次拡張事業として、計画給水人口を2万4200人、1日最大給水量を1万1300トンと設定しています。また、物流施設においては、水道水の使用量がそれほど多くないため、供給体制には十分な余裕がある状況です。

髙坂 恭子 議員

所要時間 60分

戦争を忘れず、平和を未来へ

問 この夏は戦後80年の節目であり、新聞やテレビ番組などで大きく取り上げられていました。当事者のかけがえのない声が聞けなくなる日が迫っているからだと思います。広報たこに「戦争を見つめて」の特集記事が掲載されました。特集したいきさつは。

企画政策課長 戦後80年という節目を迎えた中で、戦争の記憶は風化されているように感じます。多古町で戦争を体験した方に当時のお話をお聞きするのは、この機会しかないと思い特集記事として掲載を決めました。

問 「多古町民が綴り伝える昭和」は、ボランティア団体有志が100人近くの方からお話をお聞きし、子どもの頃の体験として戦中・終戦のことが書かれている冊子です。書籍の編集委員中心に私たちに何ができるか話し合っています。教育長として学校の立場、その他のことがありましたらお教えください。

教育長 今日、戦争を体験した方が少なくなり、記憶の継承は難しくなっています。今後は、戦中・戦後の苦難について学び、語り継ぐ活動を通して、学校教育および生涯学習の分野で継続可能な平和教育を推進していきたいと思います。町民の方々の活動と関連して活動していくことができればと思っています。

住民の手で残す、ふるさとの記憶

※**有収水量**…水道メーターで計測され、水道料金の対象となる水の量。

問 選挙協力の条件提示は公職選挙法に触れるのでは

答 政治的な方向性の違いです

花火打ち上げ事業は終了なのか

問 花火打ち上げ事業について、商工会は今年度で終了との決定がされているとの事だが、今まで話し合いはできているのか。町は事業の存続についてどう考えているのか。

産業経済課長 打ち上げ場所の問題、マンパワー不足などさまざまな事情があり、継続が難しいという事を商工会事務局から伺っています。町としても継続を望んではいましたが、実情を鑑みますと無理にということはできませんので、商工会の総意と受け取り把握をしているところです。

問 多くの町民の皆様から残念だとの声を受けている。なんとか打ち上げ花火の継続に向け実行委員会形式への移行、支援をするべきでは。

花火打ち上げの継続は

産業経済課長 事業を実施する形式として、実行委員会形式も一つの方策でありますし、思いある方々の協力を募るだとか、多様な仕組みの仕掛け方があると思いますので、今後研究をしてまいりたいと思います。

後援トラブルの再発防止を

問 町内のラジオ局による、あじさい公園で行われたイベントでトラブルがあったとの事。このイベントの実態および当日の来場者数について担当課は把握していたのか。

企画政策課長 当日どのように事業が開催されたかを含め、職員が現場に立会い確認をしています。来場者は二千人ほどと記憶しています。

問 主催者であるラジオ局は、さまざま問われている部分がある、問題ある団体という認識です。当該イベントにおいても『二万人の来場者が見込める』と募集をかけ、50ほどの出店者から高額な出店料を徴収したとの事。出店された多くのお店が大赤字だったと伺っている。町の後援事業という安心感があったとの声もあり、なかには『多古町はラジオ局とグルなんですか』との厳しい指摘もあったがどのように受け止めるか。

企画政策課長 後援事業については、町主催の事業ではないため運営側のトラブルに町は基本的に介入していません。今後、後援を続けていく中でトラブルの再発防止に真摯に努めてまいりたいと考えています。

前教育長の退任はなぜか

問 多古町の教育行政に尽力してきた木川貴美子前教育長が再任を受けることが出来なかった件について、町長が前教育長を町長室に呼び出し、その上で前教育長の夫にまで自身への支持、応援を求め、それが再任の条件であったと聞いているがどういう事か。

佐藤 利治 議員

所要時間 120分

町長 来春予定されている町長選挙において、平山町政の目指す方向性と一致しない意向があるため、再任はできないと判断しました。

問 町長が選挙協力を再任の条件として提示したと伺っている。これは公職選挙法の話になってくるのではないか。また、これはパワハラだと指摘されてもおかしくない事案であり、町長の立場から再任を含めて選挙の話を持ち出すこと自体が断罪されるべきだと強く申し上げる。行政のリーダーは何を言ったかだけではなく、相手がどのように受け取るか受け止めたかまで考えて発言すべきである。それができなければ、リーダーとして町政の運営など無理ではないか。

町長 これは政治的な考え方の方向性ということで法的専門家から助言を受けています。私の認識と議員の認識の相違は確認しました。何度も申し上げます通り、任命権は首長である私にございます。

その他の質問

●ラテンミュージックフェスタの費用対効果について

●地域おこし協力隊の審査、任用について